

小論文の書き方① ～基本的なきまりごとく～

小論文を書く、というとは何だか難しい気がするかもしれませんが。  
論文というからには、立派な内容を難しい言葉を使って論じなければ……と思う人もいる  
かもしれません。

しかし、「正しい文章を書く」だけでも小論文はぐっと上手になります。

小論文の採点では、文章の間違い、誤字脱字、形式の間違いなどで点数をひいていきます。  
どんなに立派なことを書いていても、減点されるところが多ければ良い点はとれません。

ここでは点数をひかれない「正しい文章を書く」ポイントを解説します。

基本的なことですが、ここをおさえるかおさえないかで小論文の出来は大きくかわります。  
小論文以外にも自己推薦書や志望動機など、日本語の文章を書く時には共通する基本なので、  
しっかりおさえましょう。



形式について

日本語の文章を書く時の最も基本的な約束事です。

そんなのもう知ってるよ、という人ももう一度確認して、絶対に間違えないようにしましょう。

● 段落の最初は1文字文空ける。

要	<del>×</del>	小学
で		校
あ		の
る		時
		か
		ら
		授
		業
		で
		英
		語
		を
		学
		ぶ
		こ
		と
		は
		必

● 句点（。）・読点（、）や閉じ括弧（）が行の先頭にきてしまう時には、前の行  
の最後に入れる。



。		小学
		校
		で
		は
		授
		業
		で
		英
		語
		を
		勉
		強
		し
		な
		く
		て
		よ
		い



		小学
		校
		で
		は
		授
		業
		で
		英
		語
		を
		勉
		強
		し
		な
		く
		て
		よ
		い



原則1マスに1文字ですが、句点（。）読点（、）閉じ括弧（）が行の頭にきてしまう時  
には、前の行の最後の文字と一緒にマスに入れますよう。  
文の頭にきてしまう時以外は、句点・読点・括弧も1マスに1つ入れましょう。



ここまででは形式について、日本語の文章を書く時の約束事を確認しました。  
次は形式ではなく、文章自体のポイントを確認します。

文章について

文章の書き方について、小論文を書く上でやってはいけないことを確認します。

- 「です・ます体」と「だ・である体」の混同

日本語の文章には「**です・ます体**」と「**だ・である体**」の二通りあります。

「です・ます体」

私の夢は教師になること**です**。

私には教師になるという夢が**あります**。

「だ・である体」

私の夢は教師になること**だ**。

私の夢は教師になること**である**。

友達と話す時やメールをする時にはこの二つの文体が混ざっていても良いですが、小論文を書く時には**どちらかに統一**する必要があります。



す	要	
。	で	小
	あ	学
	る	校
		の
	。	時
	英	か
	語	ら
	に	授
	慣	業
	れ	で
	る	英
	こ	語
	と	を
	が	学
	で	ぶ
	き	こ
	る	と
	か	は
	ら	は
	で	必

ちなみに、文末以外でも「です・ます」と「だ・である」が混ざらないように注意する必要があります。



通	要	
り	で	小
で	あ	学
あ	る	校
る	と	の
と	い	時
思	う	か
う	意	ら
。	見	授
	が	業
	あ	で
	り	英
	ま	語
	す	を
	が	学
	、	ぶ
	私	こ
	は	と
	そ	は
	の	必



で	要	
あ	で	小
る	あ	学
と	る	校
思	と	の
う	い	時
。	う	か
	意	ら
	見	授
	が	業
	あ	で
	る	英
	が	語
	、	を
	私	学
	は	ぶ
	そ	こ
	の	と
	通	は
	り	必

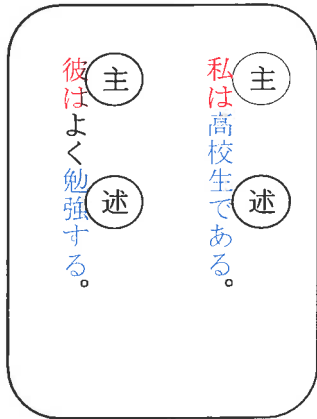
小論文では基本的には「だ・である体」に統一すると良いでしょう。



● 主語と述語のねじれ

文章には主語と述語があります。一つの文の中で、**主語と述語が正しく対応していないこと**を**主語と述語のねじれ**といいます。文章を書く時には、主語と述語が必ず正しく対応するように注意しましょう。

「○○が(は)どうする」「○○が(は)どうである」「○○が」「○○は」の部分が**主語**、「どうする」「どうである」の部分が**述語**です。



この主語と述語が正しく対応していない文章は減点の対象になります。



私	の	夢	は	教	師	に	な	り	た	い	。									
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

右の文は「私の夢は」「なりたい」という関係です。つまり、「私の夢」が「教師になりたい」という意味になります。主語と述語がねじれてしまっています。



私	の	夢	は	教	師	に	な	る	こ	と	で	す	。							
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--



私	は	教	師	に	な	り	た	い	。											
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

そんな間違いはしないよ、と思う人も多いかもしれませんが、では、次の文はどうでしょうか？



教	た		私																	
師	ち	に	は	将	来	、	得	意	な	英	語	を	い	か	し	て	、	子	ど	も
に	に	わ	は	将	来	、	得	意	な	英	語	を	い	か	し	て	、	子	ど	も
なる	か	り	、	得	意	な	英	語	を	い	か	し	て	、	子	ど	も			
の	が	や	す	く	英	語	を	教	る	こ	と	が	で	き	る					
が	夢	で	す	。																

主語と述語はどれでしょうか？

「私は」が主語、「夢です」が述語ですね。つまり、「私は」「夢です」なので、主語と述語がねじれています。



ねじれていないか、どれが主語でどれが述語かを確認することも大事ですが、  
**そもそも短い文章にする！** というのが一番間違えにくいです。



い	す	る	
と	く	仕	私
思	英	事	に
っ	語	を	は
て	を	し	夢
い	教	た	が
ま	え	い	あ
す	る	で	り
。	こ	す	ま
	と	。	す
	が	子	。
	で	ど	得
	き	も	意
	る	た	な
	教	ち	英
	師	に	語
	に	わ	を
	な	か	い
	り	り	か
	た	や	せ

もともと一文だったものを三つの文章に分けました。



教	た	
師	ち	私
に	に	は
な	わ	将
る	か	来
の	り	、
が	や	得
夢	す	意
で	く	な
す	英	英
。	語	語
	を	を
	教	い
	る	か
	こ	し
	と	て
	が	、
	で	子
	き	ど
	る	も

主語と述語がねじれないように、文章を分けてみましょう。

さきほどの例をもう一度みてみましょう。

私の夢は教師になりたい。

この間違いをする人は少ないでしょう。文が短いからです。

一つの文章が短ければ、主語と述語がねじれることも少ないのです。

長い複雑な文章になると、主語と述語のねじれは起こりやすいのです。



教	た	
師	ち	私
に	に	は
な	わ	将
る	か	来
の	り	、
が	や	得
夢	す	意
で	く	な
す	英	英
。	語	語
	を	を
	教	い
	る	か
	こ	し
	と	て
	が	、
	で	子
	き	ど
	る	も

なることですよ。

の夢は

なりたいですよ。



教	た	
師	ち	私
に	に	は
な	わ	将
る	か	来
の	り	、
が	や	得
夢	す	意
で	く	な
す	英	英
。	語	語
	を	を
	教	い
	る	か
	こ	し
	と	て
	が	、
	で	子
	き	ど
	る	も

主語と述語のねじれを直してみよう。



ら	を	軽	に	で	で	次	べ	索	し	
れ	表	に	、	き	も	に	る	機	て	イ
る	現	で	ホ	る	手	、	こ	能	、	ン
。	で	き	ー	よ	軽	離	と	を	考	タ
	き	る	ム	う	に	れ	が	使	え	ー
	る	よ	ペ	に	コ	て	で	う	ら	ネ
	よ	う	ー	な	ミ	い	き	こ	れ	ッ
	う	に	ジ	っ	ユ	る	る	と	る	ト
	に	な	や	た	ニ	人	よ	で	こ	の
	な	っ	ブ	こ	ケ	、	う	調	と	普
	っ	た	ロ	と	ー	例	に	べ	が	及
	た	こ	グ	が	シ	え	な	た	三	が
	と	と	の	あ	ヨ	ば	っ	い	つ	可
	い	で	作	げ	ン	海	た	こ	あ	能
	う	、	成	ら	を	外	こ	と	る	に
	こ	誰	や	る	る	に	と	を	。	し
	と	も	管	る	る	い	で	す	ま	た
	も	が	理	。	こ	る	あ	ぐ	ず	こ
	あ	自	が	さ	と	人	る	に	、	と
	げ	分	手	ら	が	と	。	調	検	と

長くて読みにくいですね。  
 まとめて一文で書くのではなく、要素ごとに文章を区切ってみると次のようになります。



ど	誰	成	う	に	れ	調	検		
で	も	や	に	コ	て	べ	索	イ	
あ	が	管	な	ミ	い	る	機	ン	
る	自	理	っ	ユ	る	こ	能	タ	
。	分	が	た	ニ	人	と	を	ー	
	を	手	こ	ケ	、	が	使	ネ	
	表	軽	と	ー	例	で	う	ッ	
	現	に	、	シ	え	き	こ	ト	
	で	で	ホ	ヨ	ば	る	と	の	
	き	き	ー	ン	海	よ	で	普	
	る	る	ム	を	外	う	調	及	
	よ	よ	ペ	と	に	に	べ	が	
	う	う	ー	る	い	な	た	可	
	に	に	ジ	こ	る	っ	い	能	
	な	な	や	と	人	た	こ	に	
	っ	っ	ブ	が	と	こ	と	し	
	た	た	ロ	で	で	と	を	た	
	こ	こ	グ	き	も	や	す	こ	
	と	と	の	る	手	、	ぐ	と	
	な	で	作	よ	軽	離	に	は	

● 長すぎる文章  
 小論文を書く時、一つの文章が長くなりすぎないように注意する必要があります。  
 主語と述語のねじれをふせぐためにも、一文は短い方が良いです。  
 小論文、というからには、長くて複雑な文章、難解な文章を書かないといけないと思っ  
 せんか？  
 短い文章では、子どもっぽいので印象が良くないと思っ  
 実はそのようなことはありません。むしろ長すぎる文はよくないのです。



小論文を読んで採点するのも人間です。  
 大事なのは、読む人にとってわかりやすく自分の論点や言いたいことを伝えることです。  
**一つの文を短く！ 簡潔にする！**



一つの文を短くするために、文と文をつなぐ言葉を上手に使いましょう。

【順番に要素や例を述べていく時に使う言葉】

「まず」「次に」「さらに」「また」「最後に」

「第一に」「第二に」「最後に」 など

【別の話題にうつる時に使う言葉】

「また」「一方」 など

【反対のことや反対の意見を述べる時に使う言葉】

「しかし」 など

● 略語の使用

小論文を書く時には、略語は使わないように注意しましょう。

例

×コンビニ

○コンビニエンスストア

×携帯

○携帯電話

×省エネ

○省エネルギー など

● 口語の使用

略語の他に、口語（話し言葉）も使わないように注意しましょう。

例

×こんな

○このような

×やっぱり

○やはり など



【確認問題】解答

1.

。	て	
	い	環
	ま	境
	す	問
	。	題
	環	は
	境	、
	問	今
	題	と
	は	て
	い	深
	ろ	刻
	ん	な
	な	問
	原	題
	因	だ
	が	と
	あ	思
	る	っ

い	
る	環
。	境
環	問
境	題
問	は
題	、
に	今
は	と
い	て
ろ	も
い	深
ろ	刻
な	な
原	問
因	題
が	と
あ	な
る	っ
。	て

その他に、

「私は、環境問題がとても深刻な問題だと思っている。」としても良い。

「いろんな」は「さまざま」などにも書き直すことができる。

2.  
解答例

著	持	う	る	
作	ち	に	。	電
権	運	な	第	子
の	ぶ	っ	一	書
問	こ	た	に	籍
題	と	。	、	の
も	が	第	人	登
指	で	二	々	場
摘	き	に	は	が
さ	る	、	ど	可
れ	よ	た	こ	能
て	う	く	で	に
い	に	さ	も	し
る	な	ん	読	た
。	っ	の	書	こ
	た	本	が	と
	。	を	で	が
	一	一	き	二
	方	度	る	点
	で	に	よ	あ

よ	ら	ち	う	れ	
う	れ	運	に	る	電
に	る	ぶ	な	。	子
な	。	こ	っ	ま	書
っ	最	と	た	ず	籍
た	後	が	。	、	の
こ	に	で	次	人	登
と	、	き	に	々	場
が	著	る	、	は	の
あ	作	よ	た	ど	影
げ	権	う	く	こ	響
ら	の	に	さ	で	と
れ	問	っ	ん	も	し
る	題	た	本	読	て
。	が	を	が	、	
	指	こ	一	三	
	摘	と	度	つ	
	さ	が	に	き	あ
	れ	あ	に	る	げ
	る	げ	持	よ	ら